

お知らせ

8月より毎週金曜日午前10時15分頃から住民センター前に移動販売車が来ます。詳しくは同時配布のチラシをご覧ください。

岩 沢 通 信

第91号

2018年5月25日創刊

発行 岩沢アチコタネーゼ・岩沢分館
岩沢地域振興協議会・岩沢福祉会
編集 石曾根 徹(地域づくり支援員)

安心して住める地域を目指して

公共事業現地踏査

小千谷市からは全

5月に小千谷市建設課に提出した、各町内の道路や側溝の改修に対する要望の現地での調査が6月26日午前行われた。

この日は小千谷市建設課から佐藤課長を始めとした4人の担当者、住民センターのミーティングの後、各車に分乗し岩山地区から確認を行った。調査場所では各町内の町内会長から、要望に対する説明を行い、その場で着工の返事をいただいた箇所もあった。最後は大崩まで行き一連の確認を終えたのはお昼12時近くであった。

ある中での対応となるが、緊急性の高いものや長年の要望が続いている箇所に関しては優先して行いたいとの回答があった。



人物紹介(25)



小千谷市立総合支援学校
校長 野住 明美

4月より小千谷市立総合支援学校の校長として着任いたしました、野住(のずみ)明美です。子どもたち一人一人が安心して学び、自分らしく成長できる学校を目指し、教職員とともに教育活動に取り組んでいます。

地域の皆様とのつながりを大切に、子どもたちが地域の中で多くの経験を積み、豊かに育っていける学校づくりに努めてまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

暑さに負けずお元気で!!

デイホームいわさわ納涼会



梅雨時期とは思えない太陽の照りつける中、冷房の効いた住民センターで7月8日(水)デイホームいわさわ恒例の納涼会が開催された。

今回の納涼会のアトラクションは片貝芸能保存会10人による「巫女じさ踊り」櫓に乗った巫女人形が優雅な舞を披露した後、隣に座ったおじいさんの人形がお囃子に合わせて手や首を動かして、お隣十町市の新保広大寺節などの手踊りを披露。最後はおじいさんの前にある蓋を開けるとお化けなどの様々な物が現れ、驚く様子が参加者の笑いを誘った。



イムになり、夫婦でデュエットする方や伴奏なしで相撲甚句を披露するなど、多彩な唄が披露された。

地域の安全を守る隊員に感謝

保育園避難訓練

「おい、保育園駐車場に消防車が来ているぞ。行かないのか」住民センターに近くの小泉一政さんから電話が……。急いで向かうと、園児たちが楽しそうに記念撮影をしていた。

この日は岩沢保育園で小千谷消防署と合同で避難訓練が開催され、訓練終了後は消防のはしご車やレスキュー車の見学会が行われ園児たちは、はしご車の隣に座っ



て記念撮影。また、はしご車を最大限伸ばしたお披露目では歓声が上がった。署員からは火事や地震の時にはどう行動したらよいかなど園児に優しく指導があった。



スクールバスの通年運行を市長に懇願

市長と話そう！小千谷の未来とまちづくり

市内12地区で5月から行われている市政懇談会の岩沢地区が7月2日岩沢住民センターにて開催された。

会には子供や女性含めて24名が参加。始めに宮崎悦男市長から現在市が進めている政策などを説明、その後参加者との懇談を行った。最初の意見では子供さんを持つ母親から「現在熊対策として南中学校に通学する子供たちをスクールバスで一時的に送迎しているが、これを通年で運行してもらいたい」と要望。他の母親からも強くお願いしたいとの意見が相次いだ。これに対し宮崎市長からは「スクールバスの運行に関しては、通学距離などの規制があるが、

出来ないとするのではなく、どうしても出来るようになるか今後キャッチボールをしながら一緒に考えて行きましょう」と前向きな回答があった。他の参加者からはT D K信濃テクノ工場新設について市長に賞賛の声が上がった。



ぜひ、多くの町民からご参加を!!

岩沢まつり実行委員会

6月19日(金)第33回岩沢まつり実行委員会が住民センターに

て開催された。本部会議で提案された開催日時や役割分担、企画構成が事務局から報告され、ほぼ全ての内容が承認された。



まつりの詳細は8月上旬に全戸配布のチラシが配られるが、例年通り8月15日(土)午後6時から中越住電装棟正面玄関前駐車場と隣接する市道を車両通行止めにして開催される。昨年好評だった抽選会も行われ、参加者にはもれなく賞品が配られる。抽選会の後は大花火大会も開催される。(写真は昨年の盆踊り風景)

編集後記

7月11日発行の小千谷新聞に気になる投稿がありました。その方は度々投棄されているゴミを回収し、分別、洗浄を行いゴミステーションに持ち込むとのこと。その中で改めて分析もしてみようと、不法投棄している人は同一人物とみられ、十日町市から雪峠を経て小千谷市に通っている様だとのこと。もはや然るべき機関に相談せざるを得ないと締めくくっています。ゴミの投棄と言え、岩沢地内にも必ず決ま

